

発行

株式会社 エスクリエイト

名古屋市中区錦一丁目4番16号 日銀前KDビル4階

TEL: 052-222-3600 FAX: 052-222-3699

URL: <http://screate-soft.co.jp/>

担当: コンサルタント 石垣 智博

tomohiro.ishigaki@screate-soft.co.jp

2月になりました。あっという間に1月が過ぎ去りました。1月はアベノミクス効果?で株価が上昇し、為替は円安に向かっています。政権交代して何か動き出しました。アベノミクスでは3本の矢(①金融政策、②財政政策、③成長戦略)が重視されており、①金融政策の効果なのかもしれません。

しかし、実態が伴わないと、それらは下降していきます。より実態に影響するのが③成長政策ではないでしょうか。(個人的には日本の財務状況(負債)は気になっています。財政は健全化するのだろうか?・・・不安です。)

成長戦略の絵が描けて、実行に移せるのか?需要が拡大し、良い具合に循環するのか?財政出動だけで終わってしまわないのか?将来の不安は払拭されるのか?

もちろんやってみないとわからない面はあります。そういう前提も視野に入れてPDCAを回していけるのか?など色々気になりますね。

「毛利の3本の矢」の様にそれぞれが矢としての機能を果たし、さらに3本の相乗効果でより強固なものになることを期待しています。今後も、注視していきたいと思います。

## 楽しみにしている連載から感じたこと

@IT という IT 技術・キャリアに関する専門のホームページがあります。(URL: <http://www.atmarkit.co.jp/> IT エキスパートのための問題解決メディア)

その@ITのコンテンツで「鼠と竜のゲーム」という小説風の連載があります。専門用語がでてきますが、IT関係者でなくとも楽しめます。

連載記事一覧のURL:

[http://el.jibun.atmarkit.co.jp/presenter/all\\_entrylist.html](http://el.jibun.atmarkit.co.jp/presenter/all_entrylist.html)

第一話「鼠と竜のゲーム(1) 家宅捜索」冒頭から引用します、『あなたはもう結末を知っている——T市立図書館システムにまつわる拙速な逮捕劇、そしてクロラ氏が最終的に

名誉を回復したいきさつを。だが、あなたは発端——この事件の遠因となった1人の男の不可解な暗躍の理由を知らない。それは、彼が棲息する企業が、企業倫理を軽視し、技術よりも利益を追求した結果によるものだ。ましてその裏話——あるベンチャー企業の生き残りを賭けた物語となれば、なおさら知りようもない。』とあります。

クロラ氏がT市立図書館の検索システムへサイバーテロ(DOS攻撃)をしたと容疑で逮捕されるところから始まります。

勿論、クロラ氏はその意図がありません。大手ベンダーが納入したT市立図書館システムに不具合がありました。

そして、その大手ベンダーの開発担当者は個人でその不具合を隠滅しようと動き出します。不具合とは関係のない機能を開発した下請け会社が巻き込まれ、下請け会社にたいして風評被害が発生します。

さらに、大手ベンダーでは履歴として残っているバグ入りソースコードを削除する業務命令(証拠隠滅)が発動し・・・というストーリーです。

このまま下請け会社は黙っていないと思います。この先どのような展開になるのでしょうか。面白いので是非読んでください。

実は、この話の基となった事件があるようです。気になる方は「図書館事件」でインターネット検索してください。思ったより近所で驚きました。弊社技術者に確認したところ、確かにそのような事件があったと記憶しているとのことでした。

この連載で感じていたことは、包み隠さず「事実を報告」して欲しいということです。

IT技術者はバグ(不具合)のないシステムをつくるのが命題の1つです。設計、製造、テストといった各工程でレビューや綿密なテストよりバグをつぶします。そのために、レビ

ューに関する技法、製造に関する技法、テストに関する技法、もちろん要件定義や設計に関する技法など様々なテクニックを擁してシステムを開発しています。それでも不具合が発生することがあります。時には世間を巻き込む大きなトラブルになってしまうことも起こります。

では、不具合を見つけたらどう行動するのか？

やはり「事実を報告」することだと思います。隠したいという心情は理解できますが、隠してはダメです。

会社を巻き込み、最悪の事態を招いた場合も同様です。会社ぐるみで、証拠隠滅などせず、潔くしっかり説明し責任を取る方がいいと思います。連載の物語の様に会社ぐるみで証拠隠滅や嘘をつくなどすると、つじつまを合わせようとさらに嘘の上塗りをする必要がでてきます。そうなるともう負のスパイラルです。その時は対処ができて数年後明るみに出ます。会社継続の問題に発展する可能性も否めません。

世の中で不祥事を起こしても事後対応をしっかりした会社は、その後も継続して仕事をしております。

信頼を壊すのは一瞬、取り戻すにはどれだけの時間がかかるのか……。傷が浅いうちに対処の方が良いと思いました。

そして、企業の倫理・コンプライアンス・ガバナンスというものを突き詰めて考えていく必要性も同時に感じました。

## 「本は考える為のサプリメント」(その22)

今月ご紹介する本は、発想法に関する書籍です。この書籍を読んで嬉しかったのは、情報を収集する必要性を言っていることです。個人的には、アイデアを発想するにはまず情報や知識が必要だと考えており、同じ意見だったからです。

日本でこの書籍が発行されたのは1988年です。もしかしたら、「まず情報や知識が必要」という考えを私が持つ基となった情報に、この書籍が影響を与えたのかもしれない。



### 「アイデアの作り方」

(ジェームス W. ヤング 著)

この本は、とっても薄いです。しかし、著者が言いたいことはしっかり記載されています。

◇「アイデアをあなたはどのようにして手に入れるか」に対する回答

- ・フォード社の製造と同じように一定の明確な過程
- ・習得したり制御したり操作技術によるもの
- ・その技術を修練することで有効に使いこなせる
- ・ただし、最も困難な知能労働が必要となる

◇アイデアの作成について知っておくべき2つ

- ・アイデアが創りだされる方法を訓練
- ・全てのアイデアの源泉である原理を把握する

◇アイデアをつくる技術には5つの過程がある

さらに、本書で「アイデアとは既存の要素の新しい組み合わせ以外何物でもない」「事実と事実の関連性を探ろうとする心の習性がアイデア作成には最も大切なもの」「この習性を修練する良い方法は、社会科学の勉強をすること」と大変示唆に富んだ話も記載されています。

本書が薄いのであまり書くと内容そのままになってしまいますので、ここまでにします。

本書の通り、知識と知識の新たな組み合わせがアイデアになります。同様に異業種とのコラボレーション(組み合わせ)で新たなアイデアが生み出されるのではと、再認識しました。他業種をもっと詳しく調べ、様々なコラボレーションを考える過程はとてもワクワクしますね。

## 編集後記

◆「アイデアの作り方」では、悶々と考えるのではなく、「一度問題を完全に放棄し、自分の想像力や感情を刺激するものに心を移す」と記載されています。それはリフレッシュが大事だということです。

仕事でも趣味でもリフレッシュをしないといい発想が来ないということです。

リフレッシュすることで、趣味の時間に仕事に関するアイデアがでたり、仕事の中に趣味に関するアイデアがでたりすることでしょう。仕事・趣味そして家庭、バランスが大事ですね。

◆「本は考えるためのサプリメント」というタイトルは、脳みそに知識という栄養を与える意味で付けました。良い書籍に出会うと、栄養以上に「人生の先生・師匠」になると思います。

う〜ん、タイトル変えよっかな。ふと思いました。(石)

